



「まさか・・・」から、「もしかしたら・・・」へ

先日、三豊市内の女子中学生が、男子高校生にナイフで切りつけられるというショッキングな事件が発生しました。2人は携帯電話の「プロフ」で知り合ったばかりで、この日は高校生が携帯電話のメールで中学生を呼び出したことから事件に発展したようです。（※プロフとは、プロフィールを略した言葉で、主に携帯電話から利用できる、インターネット上の簡単な自己紹介ページのことです。性別や年齢などの簡単な質問に答えるだけで、手軽に個人のページを作成して公開できるため、特に女子生徒の間で流行しています）

これまでも携帯電話が発端となり子どもたちが悪質な事件に巻き込まれるケースがよくありましたが、実際に私たちの身近で起こってみると、決して他人事とは思えません。「まさかうちの子はこんな目に遭わないだろう」と思うのではなく、「もしかしたらうちの子も・・・」という危機意識をもつ必要があります。

群馬大学の下田教授は、携帯電話について次のように語っています。「インターネット機能付きの携帯電話を子どもに持たせているのは、世界の中でも日本だけである。アメリカの家庭では、最初はフィルタリングをかけて有害な情報を制限する。その後、ルールや判断能力が身につけば、徐々にフィルタリングを外すようにしている。だから、今、子どもたちの間で起きている、ネット上のサイトや掲示板などの問題は、すべてインターネット機能付き携帯電話を安易に与えた大人に責任がある」。

このような中、昨日、三豊市PTA連絡協議会総会が開催され、下のようなアピール文が宣言されました。子どもたちが危険にさらされている現状を十分に踏まえ、学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちが安全で安心して過ごせる環境を創っていきましょう。

みとよの子どもを、携帯電話の危険から守る行動アピール 「危険」まで 携帯させない 親ごころ！

近年、インターネット機能付きの携帯電話を所持する子どもたちが急増し、その利用をめぐる様々な問題が発生しています。携帯電話を通じて出会い系サイト等の有害情報に触れることにより、犯罪の被害者や加害者になったり、学校裏サイト等によるネット上のいじめが発生したりするなど、子どもたちの安全と安心が脅かされており、緊急の対策が必要です。

そこで、私たち「三豊市PTA連絡協議会」では、携帯電話やインターネットの危険から子どもたちを守るために、次の宣言をします。

宣 言

- 1 子どもたちには、携帯電話を持たせないようにしよう。（学校への持込は禁止されています）
- 2 正しい知識やマナー、便利さの裏にある危険性を教えよう。
- 3 PTAが主体となって、啓発活動を推進しよう。

今、学校では

- ◆ 校内の各階にある黒板に、右のような詩がいくつも書かれています。これらは国語科の荻田先生が、各学年の実態や季節に合わせて紹介してくださっているものです。このような心を持った生徒に育ってほしいと願っています。
- ◆ 詫中の自慢の一つに「給食」があります。昭和58年には学校給食優良校として文部大臣表彰を受け、平成19年度からは、栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業の文科省指定を受けています。

人に接する時は
春の花「温かい心」で
仕事をする時は
夏の花「燃える心」で
物を考える時は
秋の花「澄んだ心」で
自分を見つめる時は
冬の花「厳しい心」で

そんな中、5月11日の放課後、大矢栄養教諭と調理員（真鍋、香川、森上、曾根）さんが、大浜の海に出かけて天草を取って来られました。水にさらし、天日乾燥させることを繰り返し、退色して白色になったものを乾燥させると、寒天や心太（ところてん）の原料となります。給食に使用する食材をお店などから仕入れるのではなく、直接取って料理してくださっているのです。給食に出る日が楽しみです。